

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 2月 8日

公表:令和 4年 2月18日

事業所名 da·monde WEST

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	狭いながらに圧迫感を感じさせないよう開放的な空間と個室とに分けている。	利用人数が多ければそれだけ、狭さを感じてしまうため、学習机や椅子をこまめに移動することでスペースを確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	3	1	マンツーマンにならざるを得ない場合が多々ある中で職員同士が協力し合っている。	送迎車と施設間での誘導時に危険が伴う為、声を掛け合い連携を取りながら誘導していく必要がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	4	支援室までに階段(外階段)となっている為、利用前に支援室までの移動が出来るかを確認している。	商業施設のため、大きな改善は望めない。中階段は、らせん階段のため、転落等事故につながらないよう、必要最低限の使用を継続していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	朝礼時に、意見を出し合う機会を設けている。	もう少し積極的に動けるよう、時間を作っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	アンケート結果をもとに話し合いを行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	ホームページにて公開されている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	コロナ禍において、オンライン研修を活用している	状況が落ち着いてくれば、外部の研修にも積極的に参加していきたい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	6か月毎のモニタリングにて本人や保護者のニーズを確認し、計画に組み込んでいる。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	必要に合わせた内容に出来るアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	職員で話し合い、それぞれの得意分野を生かして担当。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	季節を感じられる内容を心掛けている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	個別支援計画の目標が上がっているものや、それぞれに合った課題を提供している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	その子に何が必要かを職員間で話し合い計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	全員揃った時間で朝礼を行い、その日の予定や情報共有を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	送迎で遅くなる職員もいるため、翌日の朝礼で前日の気になるところなど、情報共有している。	立ち話は、常に繰り返し見られるため、大事なことは、確実に記録に残していけるような仕組み作りを行なっていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	2	毎日正しく記録を取れているわけではないが、反省点などについては、次回の支援に生かす工夫をしている。	しっかりと記録に残すことにより、支援の検証・改善につなげていけるよう努めていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	6か月毎にモニタリングを行い、計画を見直している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0		地域交流の場が乏しいため、コロナが落ち着いたら、開拓していきたい活動である。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	3		行われていないが、開催されればふさわしい職員の参加となる。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	学校へのお迎え時、その日の様子などは先生との情報共有が出来ている。予定などは、プリントのやり取りを行っている。	継続した日々の学校での様子など、分からない部分もあるため、よりかかわりを多く出来たらと感じる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	現在、医療的ケアが必要な利用者はいない。服薬などの情報は、保護者から情報を受けている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	必要時、相談員を介して情報共有を行っている。	継続した支援を行えるよう、より細かな情報提供してもらえるよう働きかけていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	1	実習先へ移行する子が多く、卒業前の情報共有もを行っている。	卒業後を見据えた支援も行なっていけるよう、実習時の様子などもしっかりと情報収集していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3		専門機関との連携は取れていない為、支援に活かしていけるよう関係を築いて行きたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3		現状、交流は出来ていないが、交流できる機会を設けていければと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4		実施されていない。実施されれば積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	送迎時の会話や連絡ツールでの日々の様子の記録にて伝え合っている。モニタリング時には、課題について話し合っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	4	ペアレントトレーニングとまでいかないが、意見は伝えることもある。必要であれば、相談支援事業所や学校とも情報共有を行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0		職員全員がしっかりと把握できるよう、勉強できる機会を設けていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1	傾聴の姿勢。できる事は、対応していく。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4		保護者同士の交流の場を提供できればと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1	体制は出来ている。	苦情があった場合には、後回しにせず、迅速に対応していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	毎月、活動予定表を発行。	
	35	個人情報に十分注意している	4	0		掲示物やブログ写真などにも十分注意を払う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	理解できなかった言葉は、保護者に確認している。ジェスチャーや手話なども取り入れている。	職員の手話が勉強不足。子どもたちとともに、学んで行きたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	近所の方とのあいさつ程度。	まずは、同じ商業施設内での交流が出来ればと思う。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2		保護者への提示が、出来ていない内容や、作成できていないマニュアルは、随時提示していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	年2回は、避難所までの経路の確認の訓練を行っている。混乱しないよう、小さな訓練も行うようになっている。	周辺店舗への協力をしっかりと得られる体制づくりを行なっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	毎年虐待防止についての研修(確認)を行っている。	虐待の意識がなくても周りから見たら虐待に当たる行為など、しっかりと防止してけるよう、振り返りの機会を設けていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	0	安全確保のため、保護者と確認をしながら計画にも記載している。	どのようなことが、拘束に当てはまるかなども、常に意識しながら支援を行うようにする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	保護者からの情報を一覧表で掲示している。	アセスメント時には、再度確認していくようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	ヒヤリハット報告があった際は、内容を回覧し皆で共有している。	小さなことでも、事例として発信し、事故を未然に防いでいく。